

令和7年 **4** 月の**安らぎ**通信



下水道の老朽化改善 大阪・羽曳野が全国首位

エリア絞り優先改修

*大阪府羽曳野市はエリアを絞った管路の更新が奏功し、50 年を超えた管の割合を示す老朽化率が全国の自治体で最も改善しました。

*羽曳野市の 2023 年度の老朽化率は 5.2%と 5 年間で 1.6 ポイント下げました。

*下がった自治体は全国で 5 市だけ。

*大阪市は 1894 年に下水道整備を始め、管の総延長は約 5000 km。

*老朽化率は 2023 年度で 49.5%と関西で最も高くなっています。

*2021～2030 年度の 10 か年計画に基づき計画的に改修を進めています。

(2025 年 3 月 1 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



深刻な山火事、世界で頻発 温暖化で空気・地面乾燥

焼失面積、2023 年は東京都の 50 倍超

*2023 年は世界で東京都の面積の 50 倍を超える約 1190 万ヘクタールの森林が焼失。

*焼失面積は 2001 年と比べて 5 倍近くに広がりました。

*温暖化で気温が上昇すると、空気や地面が乾燥して発火や延焼のリスクが高まります。

*日本国内の山火事は 1970 年代をピークに減少傾向が続きます。

*戦後に植林した人工林が成長して日陰が増え、地面や落ち葉が乾燥しにくくなりました。

*発生件数は山林に落ち葉が積もって燃えやすい冬から春に集中。

2018～2022 年までの発生件数は年平均で約 1300 件、焼損面積は約 650 ヘクタール。

*このうち 2～月の発生が半数を占めます。

(2025 年 3 月 1 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



津波避難ビル 足りない 全国 1.4 万棟、地域で差 民間建物など自治体が指定 所有者の理解や協力 途上

- *津波から命を守るため民間の建物や公共施設を一時的な避難場所とする「津波避難ビル」の確保が十分に進んでいません。
- *高い耐震性やビル所有者の同意が求められ、想定される避難者数に対して施設が足りない地域もあります。
- *津波避難ビル：すぐに高台に逃げられない地域で、津波に備えて緊急的に逃げ込むための施設。
- *民間のビルや公共施設を自治体が指定します。
- *2023 年 4 月時点で約 14, 700 棟。
(2025 年 3 月 8 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

